



コモンルーム

数理 News

2021-1

東京大学大学院数理科学研究科
2021.10.10 発行 編集：広報委員会

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/publication/surinews.html>

「数理科学」再考

大学院数理科学研究科 研究科長

時弘哲治

昨年から全世界的に始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響はなかなか収束を見せず、この原稿を書いている8月中旬では、デルタ株と呼ばれる新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい、一日に2万人以上の感染者数が報告され、医療ひっ迫が懸念されています。東京では7月12日に発出された4度目の緊急事態宣言が9月12日まで延長されることになり、8月末から9月初めにかけての数理科学研究科の大学院修士課程入学試験への影響が心配なところですが。一方、高齢者へのワクチン接種はほぼ完了して新型コロナウイルスにおける重症者・死者の割合は減少してきており、若年層へのワクチン接種も始まり、東京大学でも職域接種が開始されました。コロナ禍で1年間延期された東京オリンピックも、ほとんどの競技が無観客で行われたものの、連日のように日本選手の活躍が話題になり、無事に閉会式を迎えました。甲子園では夏の全国高校野球大会が行われており、来週からパラリンピックが開催されます。数理科学研究科でも、海外からの訪問者の受入れを開始しており、海外渡航を申請する方も増えてき

ました。様々な問題点を指摘されてはいますが、ワクチン接種は順調に進んでおり、医療の拡充を始めコロナとの共存様式も確立しつつあるように思われ、遠からず通常の社会活動や生活が再開されるという期待を持っています。来年、2022年は、アフターコロナ元年になってほしいものです。

コロナ禍もおそらくある程度落ち着くと期待される来年は、数理科学研究科創設30周年にあたります。数理科学研究科は1992年4月に理学部数学科、教養学部数学教室、教養学部基礎科学科第一数学教室が統合され、単一専攻の独立大学院研究科として設立されました。教育面では、大学院の数理科学教育のみならず、前期課程教養学部1、2年生の数学科目、後期課程理学部数学科および教養学部統合自然科学科数理自然科学コースの数学教育を担当しており、東京大学の数学教育を全面的に担っています。しかしながら、他大学・他機関の方ばかりでなく、東京大学の他部局の方でも、数理との接点が少ない方には数理科学研究科がどのような組織かご存じない方も多いようです。最近でも、本学のある理系の部局長の方と話していて、

数理科学研究科と理学部数学科はどう違うのか、数理科学研究科の先生方は何を専門に研究しているのかと尋ねられたことがありました。その方は、理学部物理学科と物性研究所の関係のようなものと考えておられたようでした。数学という言葉に比べると数理科学という言葉は世間的にはなじみが薄く、数理科学研究科という名前から連想されるものが少ないのかもしれませんが。こうした体験から、そもそも数理科学という言葉はいつごろから使われているのか、また何らかの定義があるものなのか気になっていたため、この原稿を書く機会にインターネットで検索してみました。まず安直にWikipediaを見たところ、本研究科名誉教授の楠岡成雄先生が2015年に「学術の動向」誌に記載された文章が引用されていました。楠岡先生は、「数理科学という言葉は、定義のはっきりしたものではない。人により様々なイメージがあり、色々な意味で用いられている。(中略)数学は古くからある学術であるが、数理科学は20世紀後半から使われるようになった言葉のようである」と書かれています。そういえば、私は数理科学研究科に赴任してすぐに前期課程学生向けの数学

科のガイダンスを担当したことがあり、あまり真面目に考えず、「数理科学は言葉の通り理科（Science）を数学（Mathematics）が包み込んだものです」と言った記憶があります。駄洒落の類の言葉遊びですが、私の数理科学に対するイメージによく合っている気がしますし、漠然としてはいるものの説明としてあながち間違ってもない気がします。

もう少し古い記録を調べていると、数理科学研究科の図書室に 1959 年 4 月に発行された「数理科学ニュース」（数理科学懇談会）というものがあることを知りました。1962 年の第 13 号まで続き、この後継の雑誌が 1963 年創刊の「数理科学」（現在の出版社はサイエンス社）です。「数理科学ニュース」創刊号の巻頭には「数理科学懇談会成立の経過と今後の見通し」と題した弥永昌吉先生の文章が掲載されています。そこでは「いわゆる純粋、応用の区別、あるいはいろいろの分科にとらわれず、各方面の人が集まって広い立場から研究する数学という意味において、‘数理科学’という言葉が用いられております」とあります。また、学術会議から「数理科学研究所」を設立する要望書を提出したとあり、これが 1963 年の京都大学数理解析研究所の設立につながったものと思われます。数理科学研究科の図書室で数理科学ニュースを読んだついでに、雑誌「数理科学」の創刊号をばらばらと見てみると、弥永昌吉先生が司会をされ、一松信先生や山内恭彦先生などが出席された「数理科学をめぐって」という座談会が掲載されていました。一松先生は、「数理科学という普通の数学のほかに実際のことも考えなければならない」と言われ、ある条件の下で飛行機がどのくらいの距離を爆撃できるかという試験問題を出したところ、非常に長い距離を答え、「ただし生還を期せず」と書いた答案

があったという例を話されました。つまり帰ってくることを考えていないわけで、数学的には正しくても数理科学的には間違いということのようです。その他にもいろいろ興味深い話題が満載です。関心のある方は数理科学研究科の図書室の集密書庫に所蔵されていますのでご覧ください。

数理科学研究科の初代研究科長の落合卓四郎先生は、1992 年に発行された数理科学研究科の概要を記すパンフレットに研究科の設立趣旨を述べられています。要約すると、1) 入学試験からポストドクトラルまで（数学）教育を一貫としたものととらえ、あらゆる問題に対してこれまでより柔軟に対応する、2) 近年の純粋数学と他の学問分野との学際的な研究の急速な発展と社会の数学に対するニーズの増大は、諸現象をモデル化して解析する数理科学にまで教育・研究の領域を一步踏み出すことの重要性を示しており、研究者の育成と同時に高度技術専門家を社会に送り出すことを目指す、3) 数理科学では研究交流、人事交流が非常に大切であり、数理科学研究科が研究集会や国際会議などの活動の一つの中心的な役割を果たすことを目指し、学内外、国内外に開かれたものとする、ことです。現在、30 周年記念の行事を企画中ですが、これらの設立趣旨にかなう活動が十分に行われてきたかを振り返り、新たな 30 年に向かって新しい数理科学研究科の目標を策定することも必要ではないかと考えています。

私自身は次の 3 月で退職となり数理を去りますが、30 周年の行事の準備をできるだけ整えて次の研究科長に引き継ぎたいと思っています。30 周年行事に関して、実現したい企画やアイデアがありましたら、何でも結構ですので、是非、研究科長室までお知らせください。



1959 年 4 月に発行された
「数理科学ニュース」（数理科学懇談会）



数理科学研究科の図書室の書庫

研究ニュース

2020 James S. W. Wong Prize 受賞

”Initial value/boundary value problems for fractional diffusion-wave equations and applications to some inverse problems”, Journal of Mathematical Analysis and Applications
第 382 巻 (2011 年) , pp. 426-447 に対する論文賞

坂本健一、山本昌宏

このたび、国際学術誌 ”Journal of Mathematical Analysis and Applications” (JMAA) から表記のような論文賞を戴きました。この論文賞は、同紙に出版後 10 年程度にわたり被引用数が多く、高い評価を受けた論文の著者に授与されるもので、2 年に 1 回、一編が受賞の対象となるものです。この賞は、数学者であった James S. W. Wong 博士の家族の寄付による基金と出版社の Elsevier が組織しています。

学術誌 JMAA は非線形偏微分方程式などの応用解析の分野の論文を年間に約 1000 編出版しています。そのなかで選ばれたことをたいへん嬉しく思っております。この論文は、2014年に同じ学術誌から別の論文賞 The JMAA Ames Award を戴いておりました。

もともとこの論文は坂本健一の数理科学研究科への博士論文の一部です。逆問題を研究していましたが、非整数階の偏微分方程式に対して便利な基礎理論が完備していないことに気がつき、準備もかねて、軽い気持ちで問題に取り組みました。使った手法も数学科で学ぶ熱方程式の基礎理論が主体です。対象となる方程式は、時間微分が 1 や 2 とは限らず、0 と 2 の間のかつてな数である偏微分方程式です。時間微分の階数が 1, 2 ならば、それぞれ普通の熱方程式、波動方程式になります。そのような時間微分が非整数階の偏微分方程式を有界領域で考えて、初期条件、境界条件をつけた初期値・境界値問題に対して、解の一意存在や滑らかさや漸近挙動などの性質を証明しました。

微分の階数が自然数とは限らない微積分学は非整数階の微積分学とよばれ、起源は古く、ライプニッツがド・ロピタルと議論をした手紙が残っており、アーベル、リュービル、リーマン、ミッタク・レフラーなど多くの数学者も研究に携わってきました。非整数階の微積分学は、非整数階の常微分方程式論の研究につながり、最近になって非整数階の偏微分方程式が広く、かつ急速に注目されています。数学的な興味に留まらず、非整数階の拡散方程式は不均質性の強い媒質における異常拡散のモデルとしても注目され、土壌中の汚染物質の拡散予測などにも有効であることがわかっています。階数が 0 と 2 の間の非整数階の偏微分方程式の解は、急速な拡散を示す熱方程式と、解の性質が時間とともによく保存される波動方程式の特性が混ざった中間的な性質を示すことがいろいろなかたちでフィールド実験で認知や証明されたりしています。本論文でもそのような研究を行いました。不均質媒質中の特異拡散は、フラクタル上の拡散などとも関連しており数学の他の分野でも関心を集めています。

本論文は、非整数階の偏微分方程式論の研究として位置づけられますが、それにさき立つ非整数階の常微分方程式に関する 19 世紀以降の研究成果の蓄積がどれほど素晴らしいかを痛感しながら、それらを活用してこの論文を書いたものです。

応用からの関心も高まり、理論研究についても時機が熟しているときに、過去の成果を学部レベルで応用して本論文を出版し、多くの研究者の関心を引くことができました。さらに、この論文が自分たちの研究の発展の大切な基盤になっていることはいうまでもないことで、ただただこのような巡り合せと幸運に感謝しております。

Henri Poincaré Prize 2021 受賞

作用素環と数理物理

緒方芳子

八月第一週に International Congress on Mathematical Physics (ICMP) という研究集会がありました。これは International Association of Mathematical Physics (IAMP) が3年に一度開催する数理物理最大の大会です。(数理物理の色々な分野の方が集まる楽しいイベントなので、是非数理の皆さんにも参加していただきたいです。) 今回は、新型コロナウイルス蔓延のため、スイスジュネーブとオンラインのハイブリッド型での開催となりました。あいにく、私はオンライン参加となってしまいました。

大変有り難いことですが、この ICMP で、Henri Poincaré Prize という賞をいただきました。これは私にとっては本当に大きな賞で、同時に受賞された Baxter 先生のお顔を zoom 越しに初めて拝見し、現実味のなさにくらくらしました。受賞内容は量子系における Onsager reciprocity から Matrix product state, Symmetry-protected topological phase にわたる数学的研究です。Onsager reciprocity というのは非平衡統計力学の話題で、私が初めて行ったポストドク先であるマルセイユの Pillet 先生らとの共同研究です。もう 20 年ぐらい前の話ですが、まだ昨日のような気がしています。Matrix product state というのは Fannes-Nachtergaele-Werner という方々が 90 年代に開発した量子スピン鎖上のスペクトルギャップのある系を作る驚くべきレシピです。(一般にスペクトルギャップのある系を作るのは大変難しい問題なので) 大変メジャーなトピックですのでもしかしたら tensor network という言葉をご存知の方もおられるかもしれません。Symmetry-protected topological phase というのは最近私の中で熱い、スペクトルギャップのある系の分類問題です。キャリアの初期から現在に至るまでの業績を評価していただいたことを感謝しています。

上記内容は全て、量子統計力学の問題の数学的研究で、一つの特徴として言えるのは、作用素環を用いたアプローチを取っているということです。でも実は私は作用素環の研究室出身ではありません。私の博士の指導教官は和達三樹先生という可積分系の先生でした。それがなぜ作用素環を使って研究をしていくことになったかという、修士1年生の時に行った夏の学校に、荒木不二洋先生が講師としてこられたことがきっかけです。当時私は状態が巨視的に異なることとは何か理解できずにいました。そんな時荒木先生がお話しされた作用素環による統計力学の枠組みの数学的な美しさと物理的な妥当性に、「ああ、これが探していた言葉だ」と思いました。位相空間論すら勉強したことのなかった私の作用素環の勉強はそこから始まりました。そんな私の研究者としての始まりを与えてくださった荒木先生が 18 年前に取られたのと同じ賞を今私が頂いたということは恐れ多くもありがたく、感慨深いことです。そしてそれは、作用素環業界に暖かく迎え入れてくださった河東先生、また、訳のわからないことを勝手に始めた困った院生であった私を見守ってくださった和達先生の寛大さあって初めて可能だったことだと思っています。

最後になりましたが、今回の私の受賞が、私と同じ属性を持つ方々の励みになったら良いなと思います。特に、その数の少なさからもしかし辛い思い、理不尽な思いをしているかもしれない若い女性数学者、あるいは女子学生の皆さんに、数学を続けていくことの勇気を少しでも与える結果につながれば、と願っています。

トピックス

オープンキャンパス 2021

三枝 洋一

7月10日・11日に、理学部オープンキャンパスが行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は昨年度に引き続きオンラインでの開催となりました。数学科では、1日目と2日目の両日、相談・質問コーナーを Zoom で開設し、参加者からの質問にジュニアスタッフや教員



が回答しました。両日ともに30名程度の参加があり、主にチャットを通して、多岐にわたる質問が寄せられました。数学科教員による講演は2つありました。

7月10日には、小柴ホールにて植田一石先生によるライブ講演会「大学数学瞥見」が行われ、その様子が配信されました。大学で学ぶ微積分・線型代数について雑談を交えながら紹介するユニークなスタイルの講義でした。Slido を通してリアルタイムで挙がる質問にも多数答えられており、参加者はオンラインながらもライブ感を楽しめたのではないかと思います。また、金井雅彦先生によるオンデマンド講演会「多面体の話」が公開されました。正多面体の分類・多面体の剛性という、中高生にも身近な話題がテーマであり、自分で作業をしながら聞ける、楽しい講義でした。ジュニアスタッフとして参加してくださった大学院生の方々、植田先生、金井先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

オープンキャンパス世話人：三枝洋一、三竹大寿



植田一石先生のライブ講演会



金井雅彦先生によるオンデマンド講演会

図書室 Twitter のこと

安藤 京子

数理図書室の Twitter は今年6月、開始から11年経過しました。東京大学にある図書館室の中で早くに（多分最初だったかと）始めたのが自慢です。2010年6月、「Twitter やりたいです」と当時のメンバーKさんが一言。（炎上とか怖いなあと）心配しつつ「じゃ試行ってことで」と私（当時もいた）。始める前に図書委員長に相談した記憶が…ありません。万が一の時は止めればいいか、と思ったのはここだけの話です（画像は最初のツイート。検索しました）。急ぎのお知らせに便利で、メールを出しても反応しないヒトが、つぶやくとサッとリアクションする。とても新鮮でした。

夜間カウンターの学生さん達が活発なユーザーでしたので、アカウントを見つけたらフォローしました。教員の方も発見し次第即。その後他機関の数学関係者からフォローされたり、当室に興味を持ってくださる方が増えていきました。

プロフィールは未だに「試行中」、もうずっとこれでいいかも、と個人的には思っています。「ときどき中の人もつぶやきます」は、時々どころか結構な頻度になりました。駒場Iキャンパスの風景や、数理ご所属の先生に関するツイートに♡「いいね」をいただくことが多いように感じます。

今や学内あちこちの部署がつぶやきまくり、組織アカウントの先頭は「UTokyo」に、というガイド

ラインもありますが、うちは開始時【utms_library】のまま続けていく所存（一応utで始まっています）。

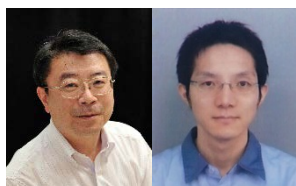
ご存知なかった方も一度覗いてみていただくと嬉しいです。そしてフォロワーさんいらっしやーい！



賞

The Journal of Mathematical Analysis and Application (JMAA)

2020 Wong Prize



山本昌宏教授 坂本健一氏



山本昌宏教授と坂本健一氏(数理科学研究科博士課程修了生)が、The Journal of Mathematical Analysis and Application (JMAA) 2020 Wong Prize を受賞しました。

受賞論文：

「非整数階拡散・波動方程式の初期値・境界値問題と逆問題への応用」

JMAA, Volume 382, Issue 1, 1 Oct 2011, pp. 426-447

この賞は、過去 10 年間に数理分析・応用ジャーナル(JMAA)に掲載された論文の中から特に優れたものを表す目的で創設されました。2012 年に James S. W. Wong 博士の家族の寄付と Elsevier 出版社によって組織され、Wong 博士の数学への貢献、キャリアの成果、JMAA への編集に敬意を表して設立されました。受賞論文は JMAA の編集委員会によって選考されました。

International Association of Mathematical Physics Henri Poincaré Prize

緒方芳子教授が、International Association of Mathematical Physics の Henri Poincaré Prize を受賞しました。

研究題目：

「量子系における Onsager reciprocity から Matrix product state, Symmetry-protected topological phase にわたる数学的研究」

アンリ・ポアンカレ賞は、1997 年に数理物理学における優れた貢献と、この幅広い分野における斬新な発展の基礎となる貢献を表すために創設されました。この賞は、数理物理学の分野ですでに卓越した貢献をした、非常に有望な若者を表彰し、支援するためにも創設されました。国際数理物理学会議で 3 年ごとに授与されます。

退職される先生からの言葉



米田 剛
准教授

この度 9 月 1 日に一橋大へ異動となりました米田です。先方の都合ではありますが、非常に中途半端な時期に異動する運びになってしまったことを様々な関係者に重ね重ねお詫び申し上げます。

東大数理における在籍期間は 5 年 5 か月でしたが、今までの私の研究者人生の中で、最も大きな研究の飛躍が得られた期間となりました。私自身、それまでは偏微分方程式としての Navier-Stokes 方程式・Euler 方程式の数学研究を進めて参りました（もちろん今も進めています）が、乱流物理研究と数学研究がもっと積極的に融合するべきなのではないかと常々思っていました。それが実現できた幸運な東大研究時代となりました。そのきっかけは、2017 年の夏に、河東先生と緒方先生主催のサマースクールで講演発表させて頂いたことにあります。私の講演発表後に「米田さんの研究は、最新の乱流研究と相通じるものがある」と或る乱流物理学者から声をかけて頂きました。そこから『わ

らしべ長者』のように乱流物理との分野横断共同研究へと発展させることが出来ました。改めまして、そのようなきっかけを与えてくださった河東泰之先生と緒方芳子先生に感謝申し上げます。もう一つ研究の飛躍があります。今年、乱流研究で最高峰のジャーナルである

Journal of Fluid Mechanics に出版された Matsumoto-Otsuki-Ooshida-Goto の論文で「Euler 座標と Lagrange 座標の違いで乱流の或る重要な統計量が本質的に変わってしまう」ことが物理的に示されました。実際のところ、私も「流体運動に対する数学的洞察を飛躍させるためには、Lagrange 座標に関係するリー代数構造を深くみていく必要があるのではないかと」常々思っていました。そんな折、幸運にも「リー群と表現論」の若手研究者である田内大渡さんと沢山議論をする機会を得ることが出来ました。異分野間の議論には色々難しいところがあるのが通例ですが、田内さんはバックグラウンドが違う研究者に対する説明が非常に上手な方でした。結果的に、彼と共に「Lagrange 座標からみた Euler 方程式」に関する論文を 2 本執筆することが出来ました（どちらもすでにアクセプトを頂いております）。改めまして、田内さんを紹介して下さいた小林俊行先生に感謝申し上げます。

東大数理時代に飛躍させることの出来たこういった一連の研究を、一橋大でも引き続き発展させて参ります。駒場と国立は物理的距離も近

いので、今後も色々な交流があると思います。その時は何卒宜しくお願い申し上げます。



研究科長室にて辞令交付
米田先生と時弘研究科長

新任紹介・教員

竹内 正弘
特任教授

本年 4 月より、数理科学研究科に特任教授を拝命いたしました竹内でございます。米国ボストンのハーバード大学で生物統計学の博士を修得後、米国食品医薬品局(US Food and Drug Administration, FDA)にて数理統計学者として、1999 年まで勤務しておりました。FDA においては新薬申請を申請するためには、臨床試験実施は要求され、その実データは提出され、数理統計学者が実際にデータ解析を行い、医薬品の有効性、副作用に関して統計解析を行います。主に有効性に焦点を当てて仮説検定を中心に解析を実施しました。1990 年代の初めには、ICH と呼ばれる医薬品規制調和国際会議が、欧州、米国、日本間で、より良い薬をより早く患者さんに提供することをモットーに開始され、欧州、米国、日本の間において審査期間は同じにすることに同意され、医薬品開発は、地球規模が市場となる土台を構築してきました。まだまだ、生物統計学分野におきましては、特に難病の患者さんにとっての新薬開発では、数理統計学の理論が必須となってきます。微力ではございますが、ご指導を仰ぎながら、研究を進めていきたいと考えております。

許 本源
特任准教授

7 月 1 日付けで着任いたしました。今年度前半までは神奈川大学の特任助教でした。学生及び特任研究員時代から思い出深い東大数理に戻ってくることができたことを大変嬉しく思っております。

研究ですが、流体力学における基礎方程式のナビエ・ストークス方程式を中心に研究しています。同方程式に関わるミレニアム問題の一つ「時間大域的可解性」は純粋数学のみならず、計算科学及び物理現象（竜巻など）とも密接に関係しています。その中に解の正則性解析、局所的な構造のシミュレーションに着目し、「幾何的正則性判定法」など解の正則性及び関連問題の数学解析を行い、その結果を基に数値計算を展開しています。

コロナ禍の中ですが、気を付けながら頑張っていきたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

野村 亮介
特任助教

2021 年 4 月 1 日付けで着任しました野村亮介と申します。よろしくお願いいたします。これまで学部・大学院・ポスドクと長年にわたり東大数理にお世話になりました。その後は、中国の清華大学、東北大学数理科学連携研究センターでの勤務を経て 3 年ぶりに東大数理に所属することになります。

専門は複素幾何学で、特にケーラー・アインシュタイン計量やケーラー・リッチ流とよばれる対象に興味を持っています。ケーラー・アインシュタイン計量は、複素多様体の重要なリーマン計量の 1 つです。その存在を示すには非線形偏微分方程式を解く必要があるのですが、1970 年代にヤウによって解の存在証明を与えられて以降盛んに研究されています。また、この非線形偏微分方程式の放物型に変形したものがケーラー・リッチ流です。これらを用いて複素多様体の性質を深く理解していきたいと考えて研究しています。至らない点が多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

木村 雄太
特任助教

今年の 5 月から東大数理に特任助教として着任した木村雄太です。よろしくお願いいたします。私は北海道で育ち、北海道大学の理学部数学科を卒業しました。博士課程は名古屋大学の伊山修教授のもとで学位を取得しました。その後名古屋大学とドイツのビーレフェルト大学での研究員を経て、今回の職に採用して頂きました。

私の専門は代数の表現論です。この分野では主に代数上の加群圏を調べることで、代数のより良い理解を目指しています。辺に向きが付けられたグラフを鰭(quiver)と呼び、鰭から定まる代数を道代数と呼びます。道代数は大域次元 1 の代数で、その表現論はとても基本的です。道代数から前射影代数が定義されます。私はこの代数を中心に研究しています。傾加群は代数の導来圏同値を導く重要な対象です。前射影代数のイデアルのうち傾加群であるものと、あるコクセター群の元との対応が知られています。前射影代数は他にも、いくつかの分野に現れることが知られています。私はそれらの関連性に興味を持ち研究を行っています。最近ではネーター代数の表現論の整備や、ビーレフェルト大学の Crawley-Boevey 教授が導入した変型前射影代数の研究も行っています。

上田 祐暉
特任助教

7 月より特任助教として着任しました。以前にも東大数理に特任研究員として勤めていたことが、懐かしの駒場に戻ってこれたことをうれしく思います。現在はコロナ禍の影響もあって、気軽にご挨拶に伺える状況ではありませんが、皆様にご挨拶に伺える日を心待ちにしております。

専門は数値解析で、特に偏微分方程式に対する有限要素法を研究しています。最近では NURBS の数値計算への応用に興味を持ち、応用時の技術的な課題、疑問に対し数学を用いて取り組んでいます。

数理では社会連携講座『冷媒熱流体の数理』に参加します。精一杯務める所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

新任紹介・職員

川辺 幸一

教養学部等経理課副課長（経理・数理科学研究科担当）

4月1日付で副課長に着任いたしました川辺幸一と申します。3月までは総務課教室事務チームの主査として、18号館で勤務をしていました。アドミニ棟経理課との掛け持ちとなりますが、数理経理チームの総括担当をいたします。コロナ禍の状況が続くなか、先生方の教育・研究業務が思うように進まない状況かとは思いますが、いままで以上に会計管理、研究支援でのサポートをさせていただければと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

昆 博史

教養学部等教務課専門員（国際交流・国際化 推進・数理科学研究科担当）

昨年4月に教養学部等事務部教務課に異動してきましたが、今年4月1日付で数理科学教務チームを兼務することになりました。学部教務に比べると大学院教務は経験が浅いこともあり、分からない部分や不安な点もありますが教員の方々や教務チームスタッフにご教示いただきながら業務を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三ヶ尻 浩生

教養学部等教務課数理科学教務チーム係長

4月1日付で数理科学教務チーム係長に着任いたしました三ヶ尻です。昨年度まで教育・学生支援部入試課で、試験関係の業務をしていました。駒場 I キャンパスは、十数年前に在籍経験がありますが、久しぶりの駒場キャンパスは、一部様変わりした様子で、時の速さを感じております。また、研究科での勤務は、その時以来ですので、分からないことばかりですが、みなさまとの信頼関係を大切にしながら、日々努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

小暮 弥生

教養学部等教務課数理科学教務チーム係長

4月付で教務チームに配属された小暮と申します。どうぞよろしくお願いいたします。3月まで在職していた医学系での仕事を含め、大学院教務にはこれまで約10年関わってきましたが、学部教務に関わるのは今回が初めてです。数理在任中、数学科の仕事を通じて学部関係の知識も身に着けたいと思っております。駒場勤務も今回が初めてで、緑が多い中建物も低層で目に優しいです。数理に配属されて良かった点は、数理棟が広く、きれいで、デスク回りもゆとりがあること。さらに、一歩外に出ると多くの花や小鳥を間近で愛でられることです。恵まれた環境のもと、よい仕事につなげたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大友 理真

教養学部等経理課数理科学経理チーム係長

7月1日付で数理経理チームに着任いたしました大友と申します。教養学部経理課経理チームより異動となりました。数理経理チームは今年4月新たに発足されたチームとのことで、旅費・研究支援・施設・用度関係等、経理業務全般を受け持っており、新しく携わる業務も多いため着任以来勉強の日々です。早く仕事を覚え、先生方の教育・研究活動のサポートができるよう精進いたします。設備や経理上で何かお困りのことがあれば、お気軽にお声がけいただけますと幸いです。現在子育て中で、時短勤務や急な休みなど、不在でご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、誠心誠意努めてまいりますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

山本和雄

教養学部等図書課情報管理チーム一般職員

4月1日付で配属となりました山本と申します。図書系職で各地を転々とするなかで、本郷の総合図書館から10年ほど学外に出た後、このたび再雇用で戻ってまいりました。転勤に伴う引越荷造りの負担が残っていたのか、着任早々に腰痛に見舞われ、どうなることかと思いましたが、直立二足歩行するまで回復しております。聞くところによると腰に来るのはこちらの伝統のようで、さっそく洗礼を受けたようです。ともあれ初心に帰って職務に励みたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

齊藤 純司

業務委託（用務員）

4月19日付で(株)関東コーワ用務員で採用された齊藤です。まだ、未熟者ですが皆様に頼られるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

人事異動

	異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
教員転入	2021.4.1	儀我 美一	大学院数理科学研究科 特任教授	大学院数理科学研究科 教授
	2021.4.1	竹内 正弘	大学院数理科学研究科 特任教授	北里大学薬学部 教授
	2021.4.1	田中 雄一郎	大学院数理科学研究科 助教	大学院数理科学研究科 特任助教
	2021.4.1	野村 亮介	大学院数理科学研究科 特任助教	東北大学数理科学連携研究センター 助教
	2021.5.1	木村 雄太	大学院数理科学研究科 特任助教	ビーレフェルド大学数学学部 研究員
	2021.7.1	許 本源	大学院数理科学研究科 特任准教授	神奈川大学工学部 特任助教
	2021.7.1	上田 祐暉	大学院数理科学研究科 特任助教	早稲田大学理工学術院 次席研究員
教員転出	2021.8.31	米田 剛	一橋大学大学院経済学研究科 教授	大学院数理科学研究科 准教授
職員転入	2021.4.1	川辺 幸一	教養学部等経理課副課長（経理・数理科学研究科担当）	教養学部等総務課教室事務チーム主査
	2021.4.1	昆 博史	教養学部等教務課専門員（国際交流・国際化推進・数理科学研究科担当）	教養学部等教務課専門員（国際交流・国際化推進担当）
	2021.4.1	三ヶ尻 浩生	教養学部等教務課数理科学教務チーム係長	教育・学生支援部入試課入試実施チーム係長
	2021.4.1	小暮 弥生	教養学部等教務課数理科学教務チーム係長	医学部・医学系研究科学務チーム<大学院担当>係長
	2021.4.1	山本 和雄	教養学部等図書課情報管理チーム一般職員	附属図書館事務部付
	2021.4.1	西村 由紀子	教養学部等経理課数理科学経理チーム主事員	教養学部等総務課数理科学総務チーム事務補佐員
	2021.7.1	大友 理真	教養学部等経理課数理科学経理チーム係長	教養学部等総務課経理課経理チーム主任
内部異動	2021.4.1	池田 亜紀	教養学部等経理課数理科学経理チーム事務補佐員	教養学部等経理課数理科学総務チーム事務補佐員
	2021.5.1	小山 アキ	教養学部等経理課数理科学経理チーム事務補佐員	大学院数理科学研究科 事務補佐員

編集後記

数理科学研究科棟屋上から



東京パラリンピックの開会式が行われた 2021 年 8 月 24 日、都内上空で航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」が展示飛行を行いました。数理科学研究科棟の真上を 6 機の機体が編成を組み、赤、青、緑の 3 色のカラスモークで上空に線を引きながら時速 1,040km(マッハ 0.9)で飛行する姿は、圧巻でした。
(撮影：金子)

広報委員長：吉田朋広
数理ニュース編集局：金子道子
校正：吉平保希